

ピラゾレート粒剤 サンバード粒剤	取扱メーカー： 三井アグロ 原体メーカー： 三井アグロ
成分： ピラゾレート〔ピラゾール系 PRTR・1種〕……………10.0%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

●一年生雑草から多年生雑草まで広範囲の水田雑草に効果を示す。しかし、クログワイ、コウキヤガラ、セリなどには効果が期待できない。

●イネ科属間選択殺草性が大きく、ノビエには強く作用するが、水稲に対しては多量処理を行ってもほとんど影響はない。

●土壌中での移動性は比較的小さく土壌吸着性も優れているので残効期間（抑草期間）は北日本で25～30日、暖地、温暖地では30日以上と長い。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●共通注意事項の5. 水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。

●散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保つ。

●雑草の発生前～発生初期の散布が有効なので、移植水稲では移植後ノビエの1葉期（近畿以西では1.5葉期）までに、直播水稲では、種後ノビエの1葉期（近畿、中国、四国、九州（壤土～埴土）では1.5葉期）までに散布する。

●オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用する。オモダカに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。

●少量散布（1.5kg/10a）は湛水条件（水深2cm）で処理し、後処理剤との体系で使用する。

●直播水稲のは種時に通常の湛水状態より水を落として散布する場合は、散布後速やかに通常の湛水状態（水深3～4cm）にする。

●多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。

雑草名	散布適期
ホタルイ ミズガヤツリ	発生前～発生始期まで
ウリカワ ヘラオモダカ	発生前～2葉期まで
ヒルムシロ	発生期まで
オモダカ	発生始期

【薬効・薬害等の注意】……………

●共通注意事項の5. 水稲除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。

●水持ちの悪い水田（減水深2cm/日以上）や水の移動の激しい水田、畦畔からの漏水の多い水田では効果が劣るので使用しない。

●適用作物（水稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

●皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。

●カブレやすい体質の人は取り扱いに十分注意する。

●蚕に影響があるので桑葉にかからないようにする。

●無人ヘリコプター散布の際は、共通注意事項の2. 空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。

●吸湿性しやすいため開封後は強く口を閉じ、長期間の保管はさける。



【適用と使用法】

作物名	適用雑草名	適用土壌	使用時期	10 a 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法	適用地帯	ピラジレート を含む農薬の 総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘオラモダカ ヒルムシロ	壤土～ 埴土	移植直後～ ノビエ 1 葉期, 但し, 移植後 30 日まで (近畿・中国・四国, 九州では、移植直後～ ノビエ 1.5 葉期, 但し, 移植後 30 日まで)	3～4 kg	2 回 以内	湛水散布	北海道	2 回 以内
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ ヘラオモダカ (東北、北陸) オモダカ (東北、 関東・東山・東海)						全域 (北 海道を除 く) の普 通期及び 早期栽培 地帯	
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ	砂壤土 ～埴土	は種時	3 kg	1 回	は種同時 散布機で 施用	全域	
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ			1.5 kg (少量 散布)			全域 (北海道 を除く)	
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ		は種直後～ ノビエ 1 葉期, 但し, 収穫 90 日前まで (近畿・中国・四国, 九州 (壤土～埴土) では, は種 直後～ノビエ 1.5 葉期, 但し, 収穫 90 日前まで)	3 kg	2 回 以内	湛水散布 又は無人 ヘリコプ ターによ る散布	全域	
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ		は種直後～ ノビエ 1 葉期, 但し, 収穫 90 日前まで	1.5 kg (少量 散布)		湛水散布	全域 (北海道 を除く)	